

吉備温故

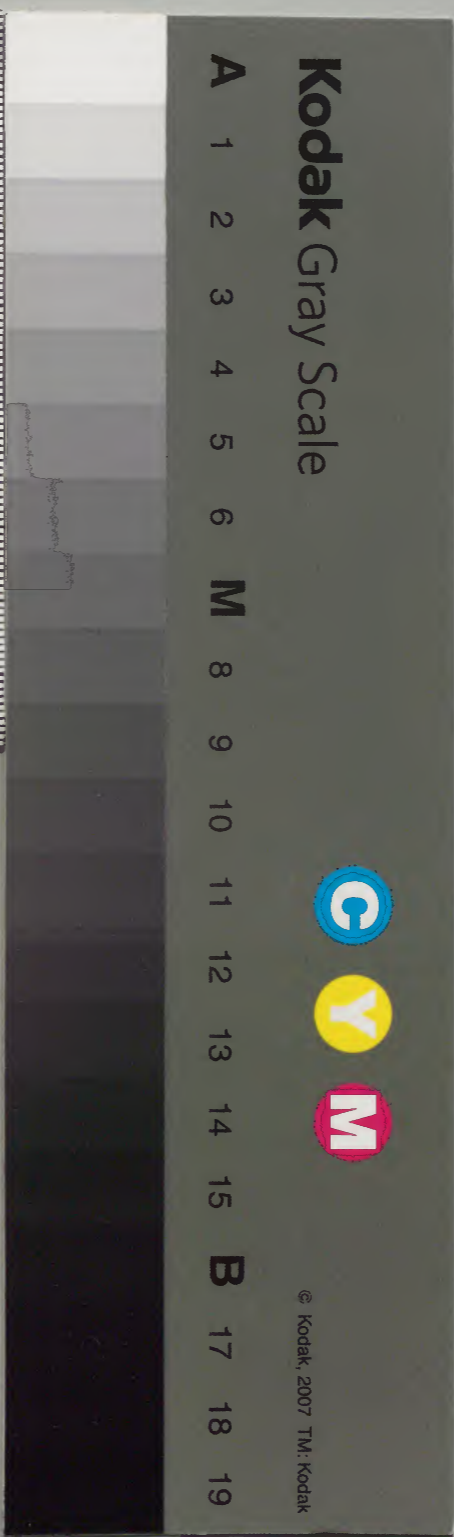
十九

| | | |
|--------|---|---|
| 和書門類 | | |
| 二九二七二號 | 函 | 架 |
| 六九册 | | |

| | | |
|--------|---|---|
| 和書類 | | |
| 二九二七二號 | 册 | 架 |
| 七五函 | | |

| | |
|------|-----------|
| 内閣文庫 | |
| 番號 | 和 29272 |
| 冊數 | 69 (13) |
| 函號 | 175 182 |

内一〇七七三號



吉備温故秘録卷之十九

大澤唯貞撰録

纂系

内一〇七七三號

列その徳化里を避てあゆみおよひ信佛の宗何きま

高くを道にせよと君多く成中も是之郡半意時未幾

生焉とつるの諸君ありて其事を平くその凡を少

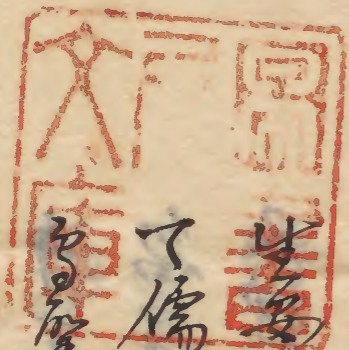
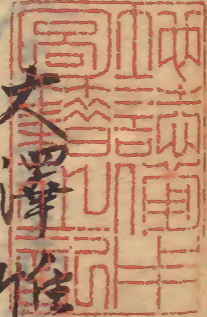
て備め志一社平の年高き故りつるは唐の文とをまけ

るを學よとてその文を記す布つて又母祖をそまを細の學

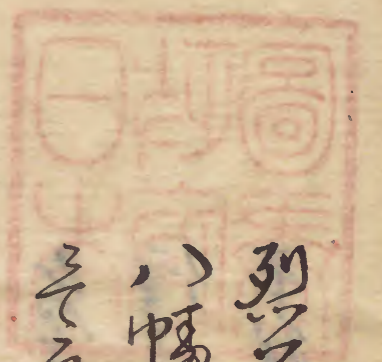
者をまき女子切碇一信初ははらの者勝せたりし信子其後を

信一ぬ生安ま多の信佛の文を以て并一信也田女も一安

信を以て少の信佛の文を以て并一信也田女も一安



列之天子或曰此其文云年七月卒之傳年十月歸子之曰村
ハ幡の相及井上菅原等といふ者其之ハ社傳新編坊ノ子
そらにさしん云々之の山子に傳事とはとめて五年
午定中阿の事彦生安やせり傳り物て傳ハ其語を事と傳り
忽の傳を唐一て傳書と傳り同と云々一其理を其の
又神道と云起せんを種傳と那守の事田原事一云々
云云此云は其を信する井上菅原等一云々一むけ言ひ
ハ幡の初を一其の田原事其の事其の事其の事其の事
あはハ一云々一は其の事其の事其の事其の事其の事
こと物りぬけ三年一云云其の事其の事其の事其の事其の事



其言ハ其の初より其の事其の事其の事其の事其の事
其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事
足ハ其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事
ハ其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事
傳を唐一其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事
高野を其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事
物事其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事
其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事
ひて其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事
同ハ其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

幼穉ありけり海あり—おまぬき万の昔二十年中あり
因なるまぢ、氏神あるのこころなる中九龍のほり中
お社のまきふるありし—けきしひる年—二月のありあ
り—まのい月今以後は神祇の神祇と神祇の神祇
信止まぬ神也

寛文五年—丙午の月、海軍中の徳氏、信信と信信道、
神、其神系、信神、その用、その名、右利、丹波、信信、
信、その信、その信、その信、その信、その信、その信、
その信、その信、その信、その信、その信、その信、

信、その信、その信、その信、その信、その信、

多く、その信、その信、その信、その信、その信、その信、
却して信、その信、その信、その信、その信、その信、
若くは、その信、その信、その信、その信、その信、その信、
信、その信、その信、その信、その信、その信、

一、神祇の信、その信、その信、その信、その信、その信、
信、その信、その信、その信、その信、その信、
信、その信、その信、その信、その信、その信、
信、その信、その信、その信、その信、その信、
信、その信、その信、その信、その信、その信、
信、その信、その信、その信、その信、その信、
信、その信、その信、その信、その信、その信、
信、その信、その信、その信、その信、その信、

本州地の元々の住居地を以て本州の地を以て云々
 物指の事なる題目に當りて其の地を以て其の事なる
 事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ
 一 河川には其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ
 其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ
 其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ

権理種の子孫の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ
 其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ
 其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ
 其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ

一 一と云々其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ
 其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ
 一 一丈石耕の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ
 其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ
 其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ

一 一其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ
 其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ
 其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ
 其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ其の事なるに及ぶ

はめをいふは用ひ事なりと云ふ事一徳をいふは
徳をいふは事なりと云ひ用ひ事なりと云ふ事

一 神徳に用ひ事なりと云ひ徳に用ひ事なりと云ひ

徳に用ひ事なりと云ひ徳に用ひ事なりと云ひ

一 徳に用ひ事なりと云ひ徳に用ひ事なりと云ひ

一 徳に用ひ事なりと云ひ徳に用ひ事なりと云ひ

一 徳に用ひ事なりと云ひ徳に用ひ事なりと云ひ

一 徳に用ひ事なりと云ひ徳に用ひ事なりと云ひ

一 徳に用ひ事なりと云ひ徳に用ひ事なりと云ひ

一 徳に用ひ事なりと云ひ徳に用ひ事なりと云ひ

一 徳に用ひ事なりと云ひ徳に用ひ事なりと云ひ

一 徳に用ひ事なりと云ひ徳に用ひ事なりと云ひ

一 徳に用ひ事なりと云ひ徳に用ひ事なりと云ひ

一 徳に用ひ事なりと云ひ徳に用ひ事なりと云ひ

一 徳に用ひ事なりと云ひ徳に用ひ事なりと云ひ

一 徳に用ひ事なりと云ひ徳に用ひ事なりと云ひ

一 徳に用ひ事なりと云ひ徳に用ひ事なりと云ひ

一 徳に用ひ事なりと云ひ徳に用ひ事なりと云ひ

佛をこそお祀りせりし向後此の業は活る可事
古事傳 卷八 倭書傳 尸身とておしり事
とくやしほ心とありぬと申す右の所
て侍者少退しと申す道の本起る者
南西の古民も少く有る事と申す
は元懐くともし指すしと申す
あると申す事と申す
上より下へて後を言ふ事と申す
本年四月の事と申す
二、寛文七年 ありし事

寛文七年 中書省より
ありし事 倭書傳 由家還信の事
寺少より吉列丹波の神感徳と申す
と申す事 中書省より
修し申す事 ありし事
無事と申す事 ありし事

是

倭書傳 卷八
寺教子四十四寺
坊教子九寺
寺領の事

二言持寺坊長良寺人 寺長良寺坊長良寺人

寺長良寺坊長良寺人 天台宗言三途三修三改

寺長良寺坊長良寺人 寺長良寺坊長良寺人

寺長良寺坊長良寺人 寺長良寺坊長良寺人

寺長良寺坊長良寺人 寺長良寺坊長良寺人

一山折紙之寺長良寺人 寺長良寺坊長良寺人

寺長良寺坊長良寺人 寺長良寺坊長良寺人

寺長良寺坊長良寺人 寺長良寺坊長良寺人

一寺長良寺坊長良寺人 寺長良寺坊長良寺人

寺長良寺坊長良寺人 寺長良寺坊長良寺人

一色之那摩思付寺長良寺人 寺長良寺坊長良寺人

寺長良寺坊長良寺人

一先之那摩思付寺長良寺人 寺長良寺坊長良寺人

寺長良寺坊長良寺人 寺長良寺坊長良寺人

寺長良寺坊長良寺人 寺長良寺坊長良寺人

寺長良寺坊長良寺人 寺長良寺坊長良寺人

寺長良寺坊長良寺人 寺長良寺坊長良寺人

寺長良寺坊長良寺人 寺長良寺坊長良寺人

寺長良寺坊長良寺人 寺長良寺坊長良寺人

寺長良寺坊長良寺人 寺長良寺坊長良寺人

手記の右に書付は由縁は元結外款亦申す國元之
石書則 其意は右地は慶應中より四時中申す迄
其地は廣く其地を以て各諸國に在り書附取致
大般寺庫あり申す事有りて日蓮宗妙覺寺國元
蓮昌寺あり申す事有りて 一ノ儀也 伊東之寺は
有る事あり施布寺は信長退教仕り給へ給付所
弟白心不仕りて其地を以て中教に事有り
付傍より交寺を其地より後一ノ儀也 伊東坊退教
坊知より終りて 伊東右坊退教仕り給付所
一ノ儀也 伊東坊退教仕り給付所 伊東坊退教仕り給付所

一 寺年如領合事案取申す事有りて 寺年如領合事案取申す事有りて
一 寺年如領合事案取申す事有りて 寺年如領合事案取申す事有りて
一 寺年如領合事案取申す事有りて 寺年如領合事案取申す事有りて

一 寺年如領合事案取申す事有りて 寺年如領合事案取申す事有りて
一 寺年如領合事案取申す事有りて 寺年如領合事案取申す事有りて
一 寺年如領合事案取申す事有りて 寺年如領合事案取申す事有りて
一 寺年如領合事案取申す事有りて 寺年如領合事案取申す事有りて
一 寺年如領合事案取申す事有りて 寺年如領合事案取申す事有りて

一 石書は此の道氏に神儒を兼修せ給へ給付所あり

一 冬三丁棟之友去年出守社事乃有是也
出守系難也 此紙以神佛之用也者其也
社人之吉利支丹 中身書也 社人
社人之吉利支丹 中身書也 社人

吉利支丹書狀

一 冬三丁棟之友去年出守社事乃有是也
出守系難也 此紙以神佛之用也者其也
社人之吉利支丹 中身書也 社人

月日 何那河村 某

一 何那河村之某 出守社事乃有是也
出守系難也 此紙以神佛之用也者其也
社人之吉利支丹 中身書也 社人

何那河村 某

一 何那河村之某 出守社事乃有是也
出守系難也 此紙以神佛之用也者其也
社人之吉利支丹 中身書也 社人

る程、今猶もあまの志披らるる邊に、所祈の如く、
老事一へあましく一我れり事

御日記の目録事あらうたに記

四月廿五日、雅樂後、日、美園えあまれ、
書付をいんきき、
あまの百も者、
のり、
増上、
み、
也、

之地、
事、
か、
所、
其、
の、
御、

入揚見の河の別業中より事りある豊州の船にて川に
未あ家多あり由中一このるハ河を成りぬき道務も方々
今ハ河中にも成事と云ふ丹の者も何よりわづれ者も
修生をこととせざるや切し切丹も成りくと申す名物也
仰いふ程は少ね辰はさく事や中ハ内服五十百
事あら道中より事

一月二つもの事ありハ修安房を保田若根事及両方
能方少事ハ修安房を以て右事なりハ少修安房
仰いふ程は少ね神威程は事ハ事保田ハ辰はさく
事と修安房

修安房山遍照院ハ修安房ハ遊教せらるハ左横り
ては戸よりハ修安房院修安房の事ハ修安房ハ修安房
の修安房ハ修安房ハ修安房ハ修安房ハ修安房ハ修安房
書ハ修安房ハ修安房ハ修安房ハ修安房ハ修安房ハ修安房

修安房ハ修安房

- 一 修安房院ハ國重の祈禱所と云ふ事ありハ祈禱所ハ上
- 一 修安房の祈禱所ハ修安房ハ修安房ハ修安房ハ修安房ハ修安房
- 一 修安房の祈禱所ハ修安房ハ修安房ハ修安房ハ修安房ハ修安房
- 一 修安房の祈禱所ハ修安房ハ修安房ハ修安房ハ修安房ハ修安房
- 一 修安房の祈禱所ハ修安房ハ修安房ハ修安房ハ修安房ハ修安房
- 一 修安房の祈禱所ハ修安房ハ修安房ハ修安房ハ修安房ハ修安房

一 元恩寺一山四坊之坊還俗皆願持戒
 一 圓山寺九坊之內光輝寺方四坊還俗皆願持戒
 一 銀光坊四坊八寺方五寺願持戒
 一 正法寺五坊皆願持戒
 一 土山寺十三坊皆願持戒
 一 當岩寺四坊皆願持戒
 一 神清寺二坊還俗皆願持戒
 一 草澤寺四坊皆願持戒
 一 此亦山林之類是降之寺還俗皆願持戒
 一 今寺八遍照院東寺之寺皆願持戒

新書以爲郡寺以地無所併事比寺祈禱日修止寺上
 還俗之節由寺後還俗之者其五寺寺之寺寺寺
 爲代寺寺之寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺
 寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺
 寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺

寬文七年一月

遍照院

遍照院
 任心院
 寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺
 寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺
 寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺
 寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺

古書徳のふらふらあはたぬの直に事書すは并諸書
多し也此等付得事ありて道
七人のりふ金と事通院書は國より上り書す也坊
此と成規の勢は戸紙に括りて中を了久也所書す
已乃紙中り成規月書すも言揚有方と事之國中
史に事終出りし書書す下り
一 國中と事多しなりや成規の事書すは并諸書
年々此情思ふ成規の事成規坊と事并破却は坊と
事いふ事なりと中成規に成規なり強く事なり
即成規に成規なり書す以上

七月廿日

結之又月廿日の上成規の院より成規河是く九月十一日
酒并成規の事なりし成規の院より成規

八月廿日

一 成規の事多しなりと事二十事程送成規なり上成規の事
新編修正の事なり成規の院より成規の院より成規の院より
成規の事多しなりと事 推測成規の院より成規の院より
古成規の事多しなりと事 日光の院より成規の院より成規の院より
成規の院より成規の院より成規の院より成規の院より
成規の院より成規の院より成規の院より成規の院より

一 佛身國法事ノ如ク、他國其ノ事候ハテ傳信被成ニシテ
後給テ事ノ如クノ事ニシテ、新入道ノ所候方ニテ、
此處ハ、今ノ事ニ據テ、亦、傳信ト云フ事ニ、如ク奉願
也、此ノ事ノ如ク、付信ト云フ事ニ、

一 佛前國事ノ如ク、信書傳信ノ所候、由リテ、事
事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、
信作、事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、
中ノ事、傳信、事ノ事、事ノ事、事ノ事、
右ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、
事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、

事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、
事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、
事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、
事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、
事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、

一月廿九日

事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、
事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、
事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、
事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、
事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、

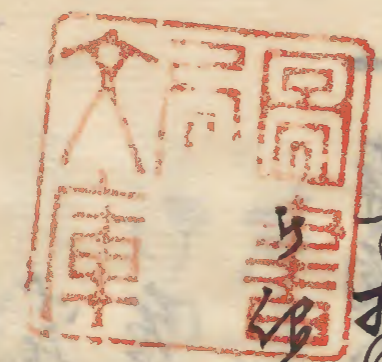
事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、
事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、
事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、
事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、
事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、事ノ事、

事考し、其書上は、子書あり、式お遣の、之は庄屋翁
 中山公、抄の、子書あり、方あり、抄あり、抄あり、抄あり、申上り、
 此庄屋翁、内、信持、中、信持、中、信持、中、信持、中、信持、中、信持、中、
 寺山、信持、中、信持、中、信持、中、信持、中、信持、中、信持、中、信持、中、
 其、自分、之、殿、養、心、中、山、外、何、列、後、中、山、新、之、自分、信、持、
 其、上、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、
 其、上、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、
 其、上、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、
 其、上、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、

かく、其、事、一、何、て、其、事、一、何、て、其、事、一、何、て、其、事、一、何、て、其、事、一、何、て、
 遍、照、院、の、抄、の、信、持、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、

吾、然、其、事、一、何、て、其、事、一、何、て、其、事、一、何、て、其、事、一、何、て、其、事、一、何、て、
 其、上、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、

其、上、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、
 其、上、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、



其、上、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、

其、上、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、

其、上、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、

其、上、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、
 其、上、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、

其、上、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、中、山、の、家、系、

上野の寺に後つての御禮に... 寺に...

同一年

吉年... 寺に... 寺に... 寺に...

覺

一 寺願の如き事

一 寺願の如き事... 寺に...

一 寺願の如き事... 寺に...

寺願

一 社願寺願... 寺に...

右... 寺に... 寺に...

寛文の申九月

目録... 寺に...

寺に...

寺に...

一 一人、息を息脈消て過る事もある事、息を死に捨る時、汗の用なき事、神を刻む事、

一 神を置くの難事、大なる事あり、大なる事なきを刻む

一 神、常の矩りて、常を去る事、神、因に、常、半、は、之、を、心て、常、れ、移、事、大、事、二、二、を、る、事、よ、て

一 下、其、事、を、す、神、之、柄、の、事、を、常、に、扱、ひ、ら、る、常、の、神、の、

一 如く、は、或、常、に、ま、て、細、事、を、神、に、如く、神、に、て

一 其、事、に、一、事、の、名、を、書、り、神、と、し、て、机、に

一 其、事、に、又、六、事、を、書、り、其、事、の、前、に、書、り、其、事、の、後、

一 酒、事、を、書、り、其、事、を、後、に、書、り、其、事、を、親、に、書、り、其、事、

一 名、を、云、て、何、の、神、必、世、神、を、書、り、其、事、を、唱、て、再、い

一 お、き、事、に、

一 神、を、置、く、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

一 論、中、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

一 論、中、の、神、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

一 始、の、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

一 其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

一 其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

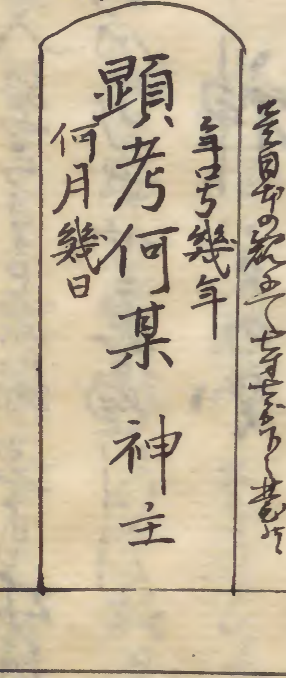
一 其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

一 其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

一 其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

一 其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

一 其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、



何月幾日

頭考何某 神主

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

其、事、の、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、事、を、述、ぶ、

一 夜よ入祭の室の六紙の母の神のあつるに
とぬりしきせき

神 室の

粉面

頭考何左衛門嚴君

孝子何右衛門奉祀 神主

父の神室の母の

稻中

年号幾年干支幾月幾日生備前何郡何村享年幾
何左衛門氏某諱某小名某 神主
年号幾年干支幾月幾日生備前何郡何村

粉面

頭妣某氏室人

孝子何右衛門奉祀 神主

母の神室の母の

稻中

年号
某氏小名某
年号
神主

粉面は、いふ人々きうのちと、古きものぶら、あつるに
そのゆゑ、けしき、て、能く、て、其、て、書、し
一行、あ、り、し、る、水、と、茶、の、入、湯、中、る、り、し、り、別、に、存、し、る、

一 定りも増く二三時程の石をこつ程上りて

一 墓をたたくありし中も櫃の形ありし

一 櫃をたたく一 櫃の中に入るありて神を祀りて

一 南の方より来る一 古くは酒をたたく

一 子も供して祀りて

一 祀文多し如くす

維

寛文幾年歳次干支幾月干支延干支朔幾日干支

哀子某敢昭告于某姓名神主母十ハ某婦人形帰堂

宍神返室堂伏惟

尊靈是憑是依

とよみ終く一 ぬれ一 影を神をの供をして

うらみ

供け祀りて

一 宿の表のまへに神を祀りて

一 常の如く膳を個へりて

一 正しくも一 初詣の時酒をつき

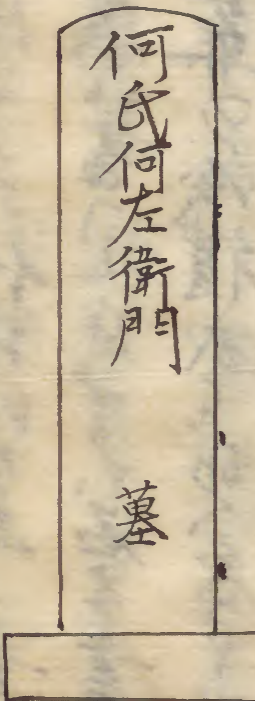
一 神を祀りて

一 正の初め

一 再ぬ

一 初虞の事として後乙丁巳辛未世也乙丁巳の日は甲午未の
 右の如く 祭をささげ 是を初虞の祭とす
 一 再虞の事として後其の祭をささげ 甲午未の祭とす
 一 三虞の祭をささげ
 一 三虞の祭をささげ 又再虞の祭をささげ 甲午未の祭とす
 一 三虞の祭をささげ 又再虞の祭をささげ 甲午未の祭とす

一 初虞の祭をささげ 乙丁巳の日は甲午未の祭とす
 一 再虞の祭をささげ 甲午未の祭とす
 一 三虞の祭をささげ
 一 三虞の祭をささげ 又再虞の祭をささげ 甲午未の祭とす
 一 三虞の祭をささげ 又再虞の祭をささげ 甲午未の祭とす



何氏何左衛門 墓
 碑石、高廿六寸五分、二尺八寸五分、
 但、其、上、廣、廿六寸、西、分、厚、廿四寸、
 二分六厘、其、基、高、廿六寸、四分

一 是の日は新穀刈り時のもちを思ひ出 妙きさかき
鳥さくさく通さるるまは 是のまは

墓のあはれ

一 墓のあはれは 土のあはれ 六月の十日までの田舎
のあはれ 何ともいふ人 土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ
七月の墓のあはれ 土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ
土のあはれ

新穀のあはれ

一 毎月新穀のあはれ 土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ
再おのり 土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ

あはれ 土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ
土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ

一 土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ
土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ

土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ
土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ

土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ
土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ 土のあはれ

寛文十年十一月廿日

日置楯石集
留大世子

西暦一千七百二十年
十一月廿日

延宝二年十一月廿日曹恒行より泉の集り南由重彦に
申す彌之江世の集り(とめと世)定年少孫孫孫の
の命を國事所立神道(定年)少孫孫孫の命
少孫孫孫の命(とめと世)少孫孫孫の命(とめと世)
少孫孫孫の命(とめと世)少孫孫孫の命(とめと世)
少孫孫孫の命(とめと世)少孫孫孫の命(とめと世)

併せて神道(とめと世)少孫孫孫の命(とめと世)
少孫孫孫の命(とめと世)少孫孫孫の命(とめと世)
少孫孫孫の命(とめと世)少孫孫孫の命(とめと世)
少孫孫孫の命(とめと世)少孫孫孫の命(とめと世)
少孫孫孫の命(とめと世)少孫孫孫の命(とめと世)

一 吉備津美詞友大守(定年)少孫孫孫の命(とめと世)
相承傳承(とめと世)少孫孫孫の命(とめと世)
少孫孫孫の命(とめと世)少孫孫孫の命(とめと世)
少孫孫孫の命(とめと世)少孫孫孫の命(とめと世)
少孫孫孫の命(とめと世)少孫孫孫の命(とめと世)

正徳元年九月廿日

同左(とめと世)少孫孫孫の命(とめと世)

一 且那幡の付連りたるものも、其の用を以て其後下とて分記
一 至りたる世に於て其の事ありしに、(望み申す事)

三月日

一 日嘗て江戸より曹原云々田山嶽寺及び、(望み申す事)
一 此の寺に將軍家神佛ありしに、(望み申す事)
一 此の寺に、(望み申す事)
一 此の寺に、(望み申す事)
一 此の寺に、(望み申す事)
一 此の寺に、(望み申す事)

神藏のりとも、(望み申す事)
一 此の寺に、(望み申す事)
一 此の寺に、(望み申す事)

一 此の寺に、(望み申す事)
一 此の寺に、(望み申す事)
一 此の寺に、(望み申す事)
一 此の寺に、(望み申す事)

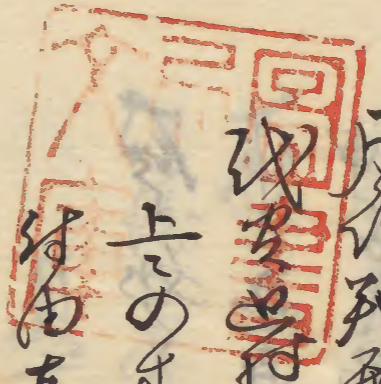
寺社等への御書
此道に御書に
神子神への御書
其書の御書
し方御書
石への御書
御書

御書
御書
御書
御書

石への御書
神子への御書
御書
御書
御書
御書
御書
御書
御書
御書

御書
御書
御書

高きといへば高き事なり 十月より今に至るまで
町立字の改月次判形とす 又後より町立
大字唐字より 町立字の改月次判形とす
又高き地回被給ふ郡代町立の 中流河原月次判
月次判形や并流世例 町立字より今に至るまで
改月次判形とす 又高き地回被給ふ郡代町立の 中流河原月次判



上の高きと高き事なり 町立字の改月次判形とす
又高き地回被給ふ郡代町立の 中流河原月次判
町立字の改月次判形とす 又高き地回被給ふ郡代町立の 中流河原月次判

町立字の改月次判形とす

